




## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2991号	氏名	赤司 昌謙
審査担当者	主査	鳥村 拓司	
	副主査	大島 孝一	
	副主査	鹿本 孝一	
主論文題目： Expression of Matrix Metalloproteinases in Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas (膵管内乳頭粘液性腫瘍におけるマトリックスメタロプロテアーゼ発現の検討)			

### 審査結果の要旨 (意見)

膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) は、緩徐な経過を示し、時に悪性化する場合がある腫瘍で近年増加傾向にある。本研究は、51 例の IPMN 症例を対象にして Matrix metalloproteinase (MMP)-1, 2, 7, 9 の発現程度を免疫組織化学にて評価し、陽性部位の分布と染色強度にて MMP score を作成し、臨床病理学的な因子と比較検討したものである。その結果、MMP score は組織学的分化度、組織型、浸潤様式などと関連が認められ、MMP score が 5 以上の症例では、5 以下の症例に比べて予後が不良であることが明らかとなった。以上の結果から、著者は MMP の発現を検討することは、実臨床においても IPMN の治療において最適な治療法を選択するのに有効であると結論づけている。審査に当たり、今後の展開、また研究内容に対する質問にも著者からの確な返答が得られた。よって、この論文は十分に学位に値するものと考えられた。

### 論文要旨

膵管内乳頭粘液性腫瘍 (以下、IPMN) には、様々な組織学的および形態学的な亜型が存在する。マトリックスメタロプロテアーゼ (以下、MMP) は、腫瘍の進行または不良な予後に関連していると考えられている。この研究の目的は、IPMN の様々なタイプの病変における分子生物学的特徴を調査することである。久留米大学病院で切除された IPMN の 51 例における MMP-1, 2, 7, 9 の発現を免疫組織学的に調査した。MMP 免疫染色における分布のスコアと強度のスコアを合計した MMP スコアを用いて各病変における発現度を比較検討した。MMP スコアは、組織学的グレード、組織学的サブタイプ、および浸潤のタイプと相関していた。MMP 高発現群 (MMP スコア  $\geq 5$ ) は、低発現群 (MMP スコア  $< 5$ ) よりも予後不良であった。MMP の発現度は IPMN の種類によって異なり、その結果は分子生物学的悪性度の相違を裏付けるものであった。MMP の発現度を検討することで、IPMN の各タイプに応じた最適な管理または治療に寄与する可能性がある。